

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(87)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(87)—

1. 始めに

前報(86)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。さらに今回から、スピーカーの接続に NRF-005T の処理を行い、300B アンプにも NRF-005T の処理を行っています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

L'OISEAU-LYRE D1701-1~D1701-3

モーツアルト **Symphony in G Minor**
 Symphony in A Major
 Symphony in D Major
 Symphony in D Major
 Symphony in C Major
 Symphony in D Major
 Symphony in D Major

Academy of Ancient Music

Concert Master: Jaap Schroeder

Continuo: Cristopher Hogwood

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

L'OISEAU-LYRE 盤ですが、製作は DECCA となっていますので、DECCA、逆

相、第4時定数 High で聴いていきます。

モーツァルトの1773年から1775年までのSalzburg時代のSymphony7曲を集めたもので、前報(86)までの盤と違って、このシリーズは聴く機会の多いものもあり、優雅さに躍動感が加わってきています。

前報(86)と同様、オリジナル楽器により、ピッチ430での演奏で、Concert MasterのJaap Schroederが率いるAcademy of Ancient Musicの演奏は、前報(86)と同様、爽やかでテンポのよい演奏で、他のレーベルの盤で聴くのと一味違った優雅な印象を与えてくれます。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal Eなどの総合的な効果として、Salzburg時代のSymphony7曲の特徴が把握でき、他のレーベルの盤で聴くのと一味違った躍動的でありながら優雅な印象も与えてくれました。

以上